

# 箱で抵抗力をつけて、 本田ですっと 悠々航海



## ルーチン®アドスピノ™ 箱粒剤

育苗期のいつでも使えて  
本田で長く効く、いもち病・  
初期害虫・ウンカ・チョウ目防除剤

イネ自身に抵抗力をつける  
植物病害抵抗性誘導剤「ルーチン」と  
幅広い害虫に強い「アドマイヤー」と「スピノ」がひとつに



慣行播種  
箱当り  
50g

高密度播種  
箱当り: 50~100g  
(1kg/10aまで)



製品情報の詳細は  
こちらから



いもち病

白葉枯病

イネミスゾウムシ

イネドロオイムシ

ウンカ類  
(セジロウンカ)

ツマグロヨコバイ

イネアザミウマ

穂枯れ (ごま葉枯病菌)

フタオビコヤガ

ニカメイチュウ

イネツトムシ

イネヒメハモグリバエ

育苗期のいつでも使えて本田で長く効く、  
いもち病・初期害虫・ウンカ・チョウ目防除剤

# ルーチン®アドスピノ™ 箱粒剤

農林水産省登録 第22705号

●成 分: イミダクロプリド … 2.0% 殺虫剤分類 4A  
スピノサド … 1.0% 殺虫剤分類 5  
イソチアニル … 2.0% 殺菌剤分類 P3  
●性 状: 類白色細粒  
●毒 性: 普通物 (毒劇物に該当しないものを指している通称)

- 1 育苗箱処理で水稻の主要病害虫に高い防除効果を示します。**  
 水稻主要病害虫のいもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ツマグロヨコバイ、ウンカ類、フタオビコヤガ、コブノメイガ、ニカメイチュウ、イネツトムシなどに対して高い防除効果を発揮します。また、細菌性病害の白葉枯病に対しても効果があります。
- 2 は種前から移植当日までと幅広い処理時期があります。**  
 新規殺菌剤ルーチン®と新技術「CR(コントロール・リリース)」を適用したアドマイヤー®、チョウ目に高い効果があるスピノ™が幅広い処理時期を可能にしています。
- 3 植物病害抵抗性誘導型殺菌剤であるため耐性菌発達のリスクが小さい薬剤です。**  
 ルーチン®は、既存のイネいもち病薬剤耐性菌に対しても有効です。
- 4 浸透移行性に優れ、長い残効性があります。**  
 ルーチン®、アドマイヤー®、スピノ™は優れた浸透移行性と長い残効性を有しています。またスピノサドは天然物由来の殺虫成分で、化学合成農薬でないため、特別栽培農作物への使用回数(使用成分数)にカウントされません。  
※地方自治体により特別栽培にカウントされる場合もありますので、関係機関にご確認下さい。
- 5 高密度播種の場合、50~100g/箱で処理可能です。**  
 高密度播種の場合、10a当りの育苗箱枚数にあわせて育苗箱当りの使用量を50~100g/箱で処理でき、安定した防除効果が期待できます。  
※ただし、10a当りの処理量は最大1kg/10aです。

## 適用病害虫および使用方法 2021年10月現在の登録内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用回数*	使用方法
稲 (箱育苗)	イネアザミウマ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	移植2日前~移植当日	本剤：1回	育苗箱の上から均一に 散布する
	穂枯れ(ごま葉枯病菌)		移植当日		
	内穎褐変病		は種時(覆土前)		
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)		は種時(覆土前)~移植当日		
	苗立枯細菌病		は種前		
	白葉枯病、もみ枯細菌病		は種前		
	イネミズゾウムシ	高密度には種する 場合は1kg/10a (育苗箱(30×60× 3 cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50~100g)	移植2日前~移植当日	スピノサド：1回	育苗箱の 床土または 覆土に均一に 混和する
	イネドロオイムシ、ウンカ類		移植当日		
	ツマグロヨコバイ		は種時(覆土前)		
	イネヒメハモグリバエ		は種時(覆土前)~移植当日		
	イネツトムシ、フタオビコヤガ		は種時(覆土前)~移植当日		
	コブノメイガ、ニカメイチュウ		は種時(覆土前)~移植当日		
いもち病	は種時(覆土前)~移植当日	イソチアニル：3回 (移植時までの処理は1回、 本田では2回)	育苗箱の上から均一に 散布する		
イネアザミウマ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	移植2日前~移植当日	イミダクロプリド：3回 (移植時までの処理は1回、 本田での散布は2回)	育苗箱の上から均一に 散布する	
穂枯れ(ごま葉枯病菌)		移植当日			
内穎褐変病		は種時(覆土前)			
苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)		は種時(覆土前)~移植当日			
苗立枯細菌病		は種前			
白葉枯病、もみ枯細菌病		は種前			
イネミズゾウムシ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50~100g)	移植2日前~移植当日	スピノサド：1回	育苗箱の上から均一に 散布する	
イネドロオイムシ、ウンカ類		移植当日			
ツマグロヨコバイ		は種時(覆土前)			
イネヒメハモグリバエ、イネツトムシ		は種時(覆土前)~移植当日			
フタオビコヤガ、コブノメイガ		は種時(覆土前)~移植当日			
ニカメイチュウ、いもち病		は種時(覆土前)~移植当日			

\*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

## 注意事項

- 本剤を床土または覆土に混和処理する場合、処理後速やかに使用して下さい。また本剤を処理した床土または覆土を放置しないで下さい。
  - 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾粉として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整して下さい。
  - 梅雨明け後の高温時の晩期栽培では、は種前およびは種時の処理により薬害が生じるおそれがあるので、これらの時期での使用を控えて下さい。
  - 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。
  - 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に、移植後田面が露出しないように注意して下さい。
  - いくさ栽培予定水田では使用しないで下さい。●かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意して下さい。●水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意して下さい。
  - きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布して下さい。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透を控えて下さい。
  - 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
  - 誤食などのないよう注意して下さい。●かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意して下さい。●水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意して下さい。
  - 散布器具および容器の洗浄水は河川等に流さないで下さい。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理して下さい。
  - 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管して下さい。
- ★播種同時施肥機や田植同時施肥機で使用する場合は、農機販売会社に本剤の使用に関して確認をして下さい。また、散布量の調整を実施したうえで使用して下さい。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

## バイエル クロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 <https://cropsscience.bayer.jp/>

お客様相談室 ☎0120-575-078 9:00~12:00、13:00~17:00  
土日祝日および会社休日を除く

F-2099 21.10.NY